

再生可能エネルギーの政策展開について

2019年3月6日
経済産業省 資源エネルギー庁
省エネルギー・新エネルギー部長

松山 泰浩

エネルギーミックス (2015年7月) ~ 3E+S の同時実現~

< 3E+Sに関する政策目標 >

安全性(Safety)

安全性が大前提

自給率 (Energy Security)

震災前 (約20%) を
更に上回る概ね25%程度

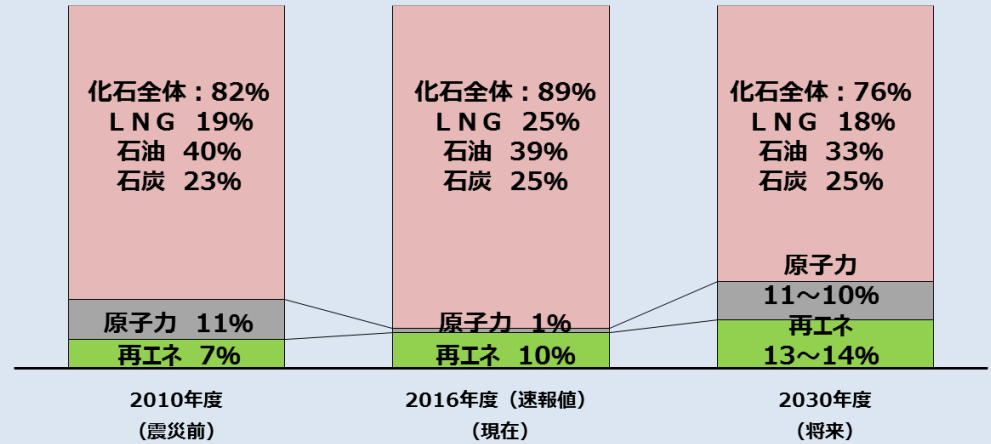
経済効率性 (電力コスト) (Economic Efficiency)

現状よりも引き下げる

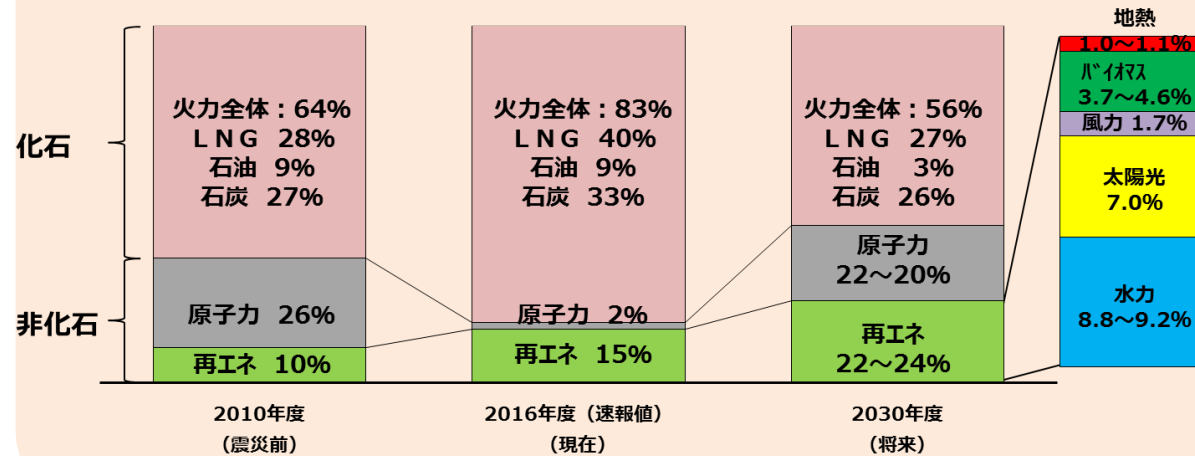
温室効果ガス排出量 (Environment)

欧米に遜色ない
温室効果ガス削減目標

一次エネルギー供給



電源構成



論点の全体像と今後の方向性

課題・エネ基の方向性

コストダウンの加速化とFITからの自立化

長期安定的な事業運営の確保

系統制約の克服

調整力拡大

エネ基～これまでの主な取組

未稼働案件への対応

価格目標の前倒し・
入札対象範囲の拡大

事業規律の強化

再エネ海域利用法を通じた
一般海域の利用ルール整備

コネクト&マネージ

次世代ネットワークの構築

第5次エネルギー基本計画（2018年7月3日閣議決定）

- 「再生可能エネルギーの主力電源化」を目指す。

2030年に向けた対応

～温室効果ガス26%削減に向けて～
～エネルギーミックスの確実な実現～

- －現状は道半ば
- －実現重視の取組
- －計画的な推進
- －施策の深掘り・強化

<主な施策>

○再生可能エネルギー

- ・主力電源化への布石
- ・低コスト化、系統制約の克服、火力調整力の確保

○原子力

- ・依存度を可能な限り低減
- ・不断の安全性向上と再稼働

○化石燃料

- ・化石燃料等の自主開発の促進
- ・高効率な火力発電の有効活用
- ・災害リスク等への対応強化

○省エネ

- ・徹底的な省エネの継続
- ・省エネ法と支援策の一体実施

○水素/蓄電/分散型エネルギーの推進

2050年に向けた対応

～温室効果ガス80%削減を目指して～
～エネルギー転換・脱炭素化への挑戦～

- －可能性と不確実性
- －あらゆる選択肢の追及
- －野心的な複線シナリオ
- －科学的レビューによる重点決定

<主な施策>

○再生可能エネルギー

- ・経済的に自立し脱炭素化した主力電源化を目指す
- ・水素/蓄電/デジタル技術開発に着手

○原子力

- ・脱炭素化の選択肢
- ・安全炉追及/バックエンド技術開発に着手

○化石燃料

- ・過渡期は主力、資源外交を強化
- ・ガス利用へのシフト、非効率石炭フェードアウト
- ・脱炭素化に向けて水素開発に着手

○熱・輸送、分散型エネルギー

- ・水素・蓄電等による脱炭素化への挑戦
- ・分散型エネルギーシステムと地域開発

（次世代再エネ・蓄電、EV、マイクログリッド等の組み合わせ）

複雑で予測困難な環境下での2050年シナリオ設計に適した複線シナリオ

～「多様性を加味したしなやかなシナリオ」とするため、常に最新の情勢・技術を360度で把握し、行動するプロセスが必要。

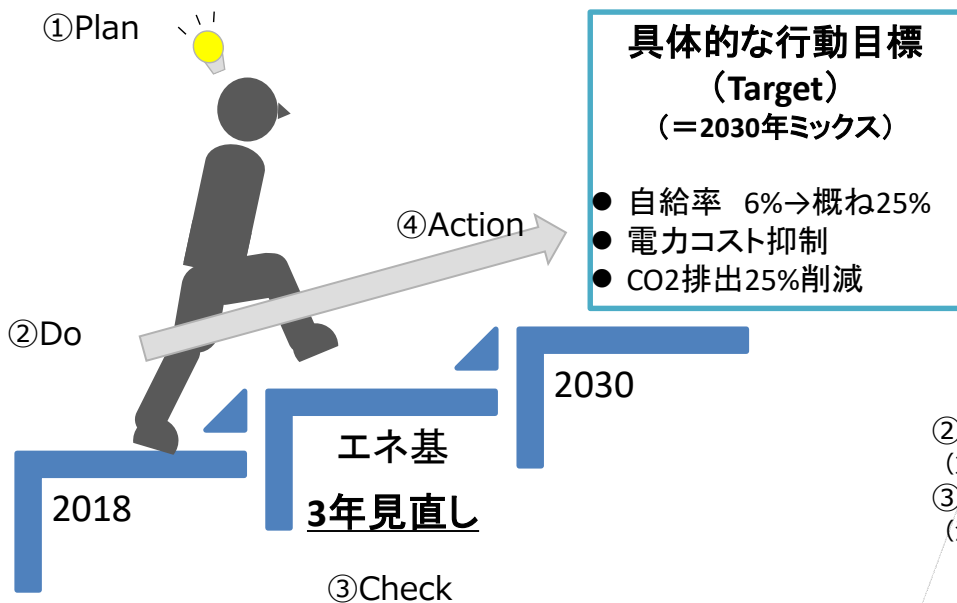
- 相応の蓋然性をもって
予見可能な未来
(予見性⇔現実的)

- インフラ・システム所与
 - ✓ 既存の人材
 - ✓ 既存の技術
 - ✓ 既存のインフラ

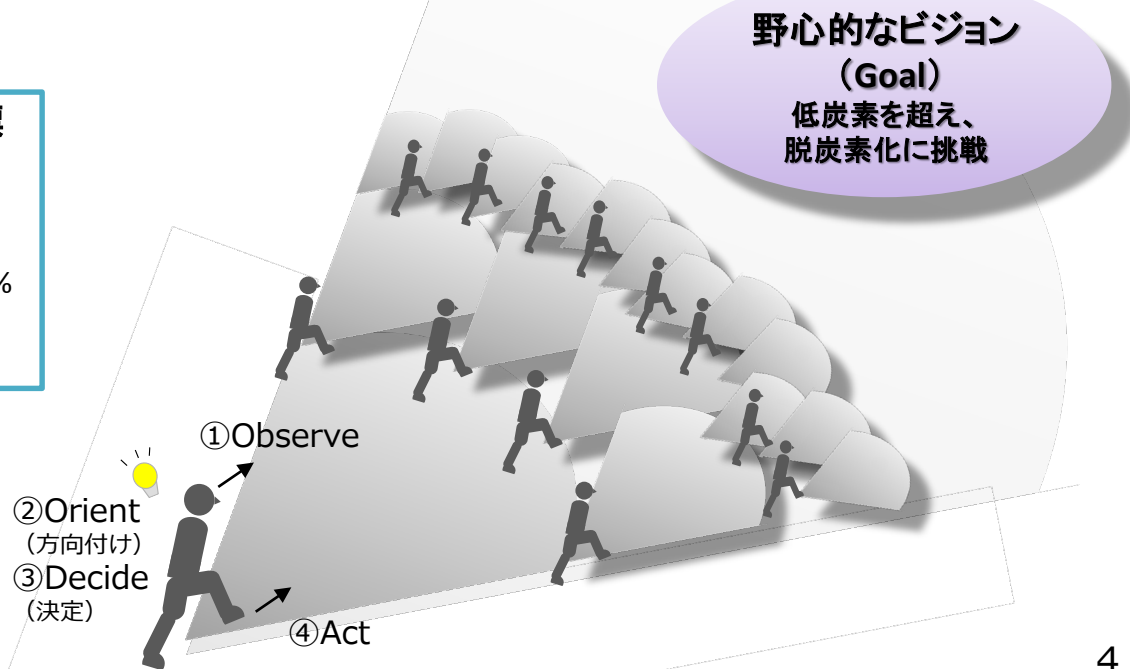
- 不確実であり、それゆえ可能性もある未来
(不確実性⇔野心的)
(VUCA: Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity)

- インフラ・システム可変
 - ✓ 人材育成
 - ✓ 技術革新
 - ✓ インフラ更新

実現重視の直線的取組
(PDCAサイクル)



多様な選択肢による
複線シナリオ
(OODAサイクル)



2050年に向けた非連続イノベーションへの挑戦

